

## 3-1.権利関係の位置付け & 攻略のコツ

1. 14／50（28％），民法が「私法の基本法」→宅建業法など多くの法律のベース
2. 難易度が高い ∵範囲が広い・事例問題が複雑・単純正誤以外のパターン  
→最低ラインを目指す
3. 暗記中心の勉強では限界がある⇒骨太の勉強（ちょっとの暗記＋制度趣旨）
4. 条文の読み込みは不要・判例（解釈）は条文の一部と考える
5. 原則と例外・要件（～たら，～れば）と効果（～する，～になる）
6. 図を書く
7. むやみに手を広げない・深入りしない

## 3-2.権利関係で学ぶ主要内容

- ▶ 制限行為能力…十分な判断能力がないとき
- ▶ 意思表示…騙されたり、脅されたりしたとき
- ▶ 代理…他人に代わって契約してもらったとき
- ▶ 時効…領収書はいつまで保管すればいいのか
- ▶ 物権変動…不動産を買ったときの注意点
- ▶ 不動産登記法…登記の方法
- ▶ 建物区分所有法…マンションに住む場合
- ▶ 抵当権…不動産を担保にローンを組むとき
- ▶ 保証…他人に保証人になってもらってお金を借りる
- ▶ 債務不履行・契約の解除…約束を守ってくれないとき
- ▶ 売買…買った物が欠陥商品だったとき
- ▶ 賃貸借…買わずに借りたとき
- ▶ 借地借家法…借主は保護される
- ▶ 相続…誰かが亡くなった時の財産の行方

## 3-3.民法の考え方

1. 人が生まれてから死ぬまでの間に起きうるトラブル（財産・家族）解決法
2. ✕ 悪か正義か ∴ 立場の互換性 → バランス感覚が要
3. 自分の意思で決めたらから責任を取る
4. → 当事者の意思の尊重（原則として任意規定）
5. → 「意思」が無かったり、不十分な場合は責任の取り方も修正される

## 3-4.制限行為能力

### 3-4-1.「能力」という言葉    ××能力がある = ××ができる

権利能力	権利を持ったり, 義務を負ったりできる能力 ※これがないと民法の登場人物になれないのが原則 ※始まりは「出生」。終わりは「死亡」
意思能力	自己の行為の結果を弁識する能力→意思能力のない者の行為は無効 ※民法上, 何をするにも最低限必要
行為能力	単独で有効に法律行為（契約など）をすることのできる能力 →行為能力がなければ, ひとりで契約などができない →制限行為能力者（行為能力が不十分な者）の行為は取消せるのが原則

☆「無効」≠「取消せる（取消すことができる）」☆

無効            ×    初めから効力が無い

取消す！    無効            ×    初めに遡って無効になる

取消せる    △    一応有効

追認する！    有効            ○    初めに遡って有効に確定する